

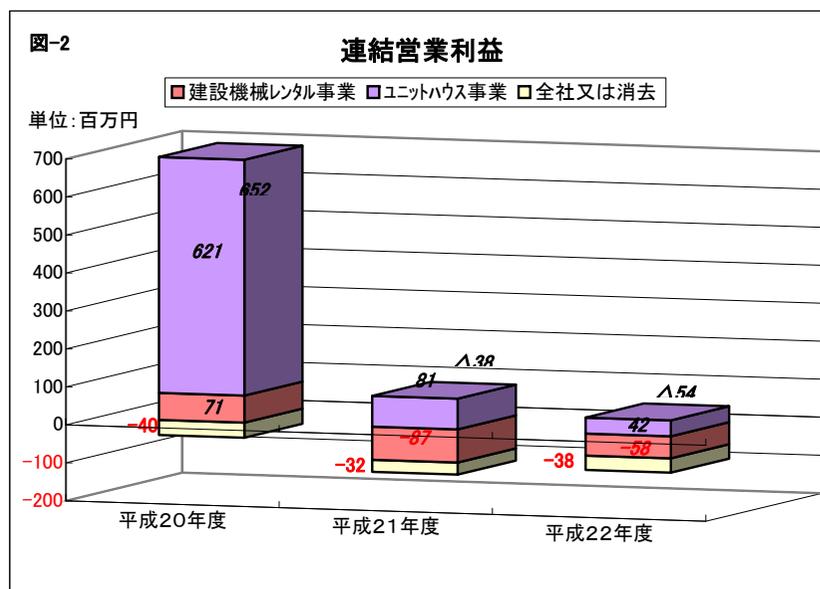
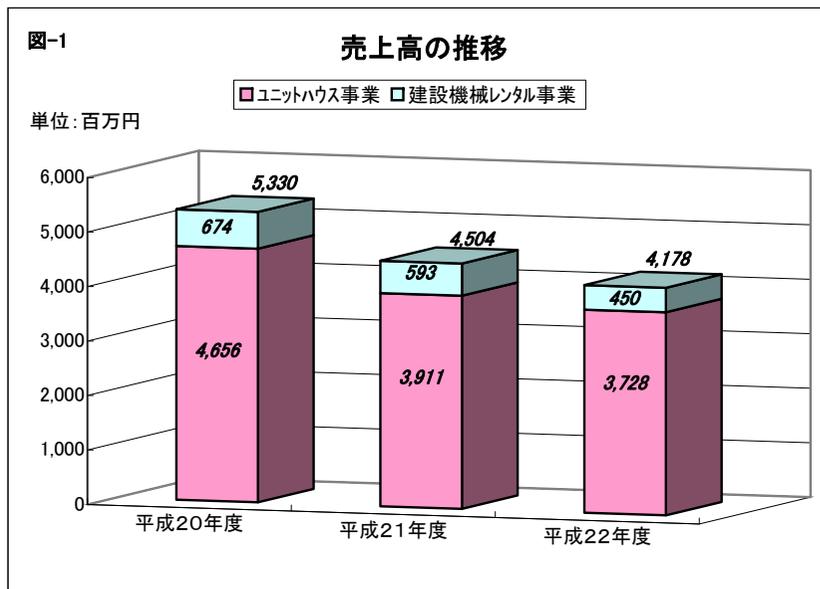
平成22年度第1四半期業績説明資料

平成22年8月

株式会社 **ナガワ**

平成22年度第1四半期の概況

- 建設市場全般
企業収益の改善により、民間工事の受注に回復感が見られるものの、依然低水準であることに加え、公共工事が補正予算効果が無くなったため大幅に減少しており、全体としては2ケタ近い市場縮小となっている。
- ユニットハウス市場及び建設機械レンタル市場
工事現場数の減少により、同業者間競争がさらに激化。稼働棟数の減少に単価の下落が追い打ち。ほとんどの会社がレンタル在庫処分での縮小均衡。実質赤字の状態。



注) 今期から建設資材卸事業を建設機械レンタル事業に含めて表示しております。

● ユニットハウス販売

中古販売は、前期厳格化した社内販売基準を緩和したことから、前年同期を数量、金額とも上回ることができた。

しかし、新棟販売については、企業の設備投資、個人消費とも本格的な回復には至らない中、廉価商品に動きはあるものの、高額物件の受注が振るわず、結果として前年同期を2割近く下回った。

図-3

ユニットハウス事業売上高推移

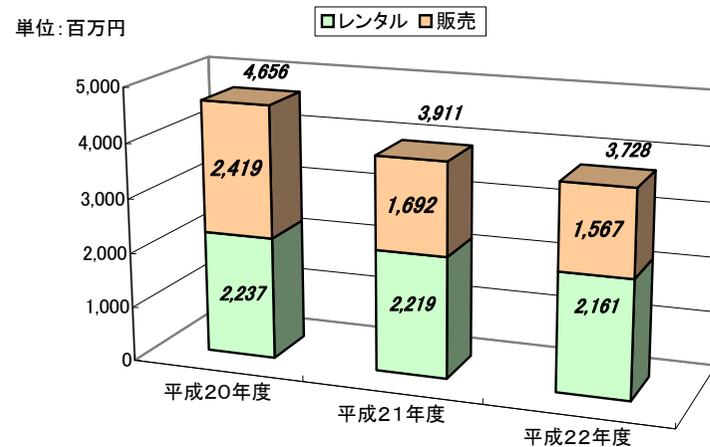
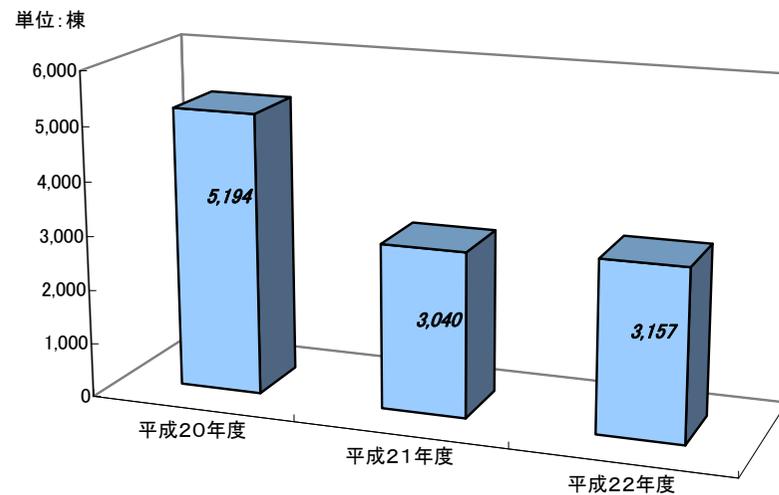
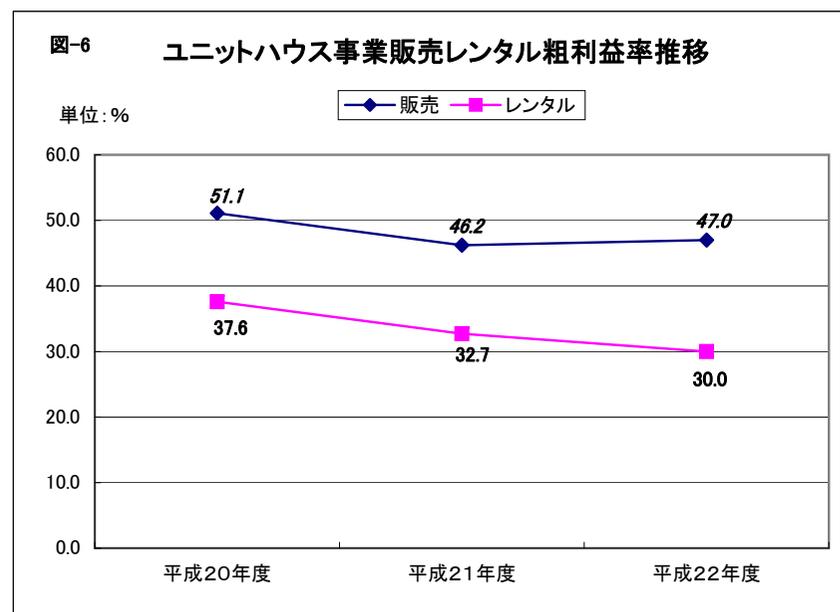
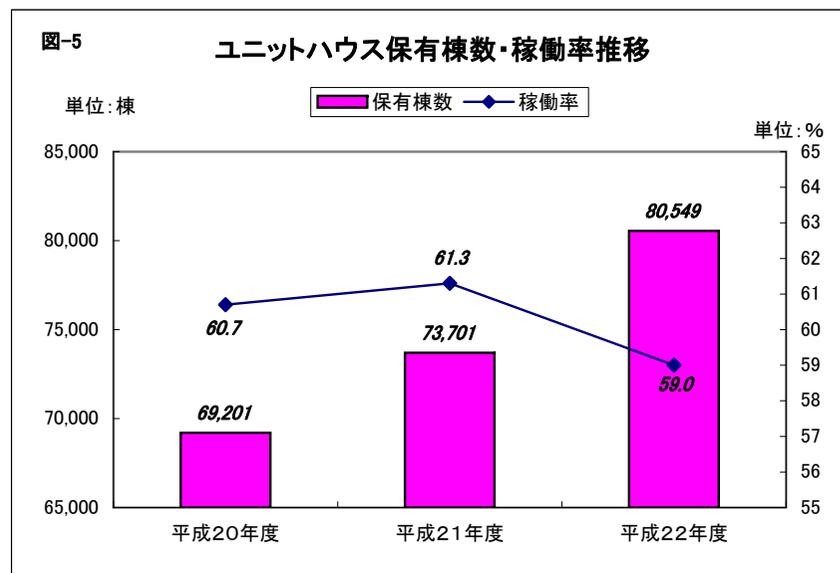


図-4

ユニットハウス販売棟数推移



- **ユニットハウスレンタル**
 当社の備品、付帯サービスも含めたレンタルサービスの評価は高く、前期実施したM&Aの効果もあり、稼働棟数は前年を上回って推移した。しかし、同業者間の競争が継続する中、レンタル単価の水準が前年同期を下回って推移したため、売上高は若干の減少となった。



● 建設機械レンタル事業

北海道南部の公共工事は、補正予算効果が剥落し、前年を大きく下回って推移した。

このため、レンタル、販売とも前年同期を大きく下回って推移した。

販売については、低採算の建設資材卸販売を圧縮した他、高収益の中古建機販売を抑制したため、売上高、粗利益率とも前年同期を下回った。レンタルについては、保有建機の台数圧縮・適正化が進捗し、償却負担が軽減したことから、売上高は減少したものの粗利益率は大幅に改善した。

図-7

建設機械レンタル事業
販売・レンタル各売上高推移

単位：百万円

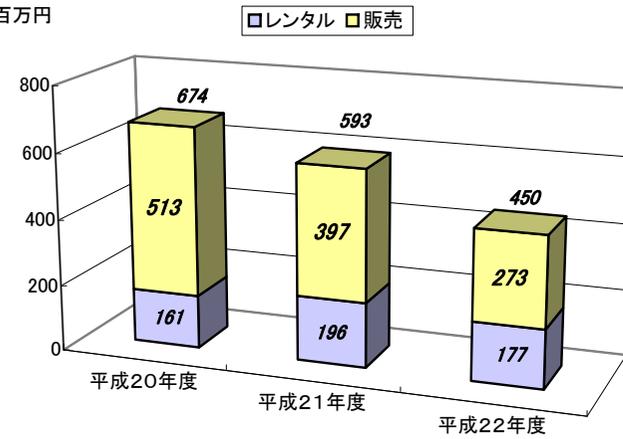
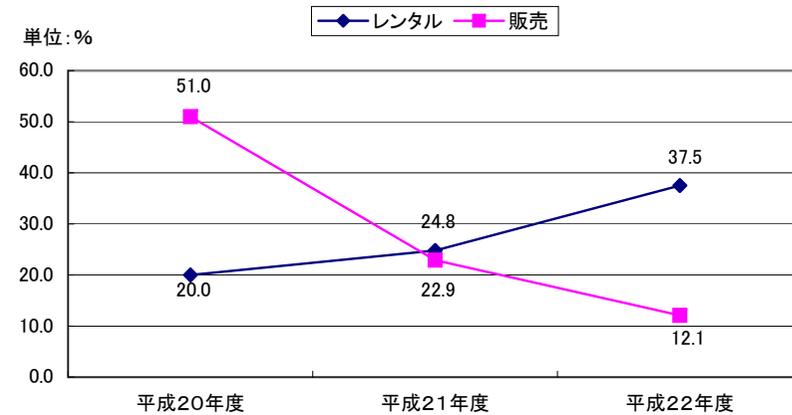


図-8

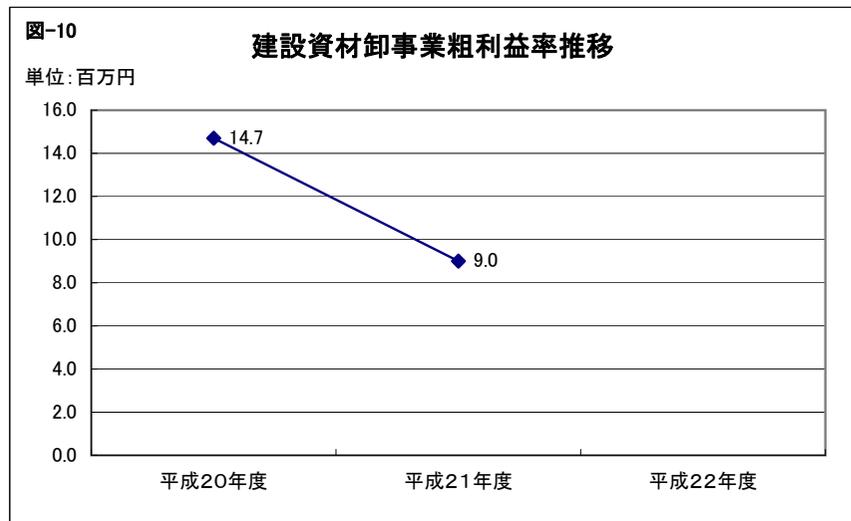
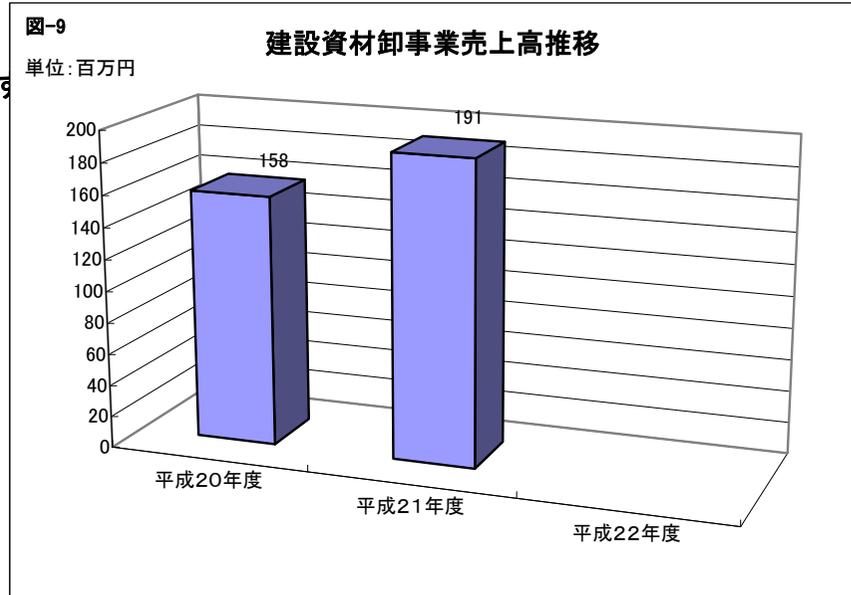
建設機械レンタル事業販売・レンタル粗利益率推移

単位：%



注)今期から建設資材卸事業を建設機械レンタル事業に含めて表示しております。

- 建設資材卸事業
今期から、建設資材卸事業は建設機械レンタル事業に含めて表示しております



● 設備投資

第1四半期の設備投資は、例年通り工事現場の少ない時期であることに加え、前期後半に買収した企業のレンタル資産が潤沢にあることから、前年同期に比べ大幅に減少した。
一方、減価償却費は、レンタル資産の積み上げにより前年同期を上回った。

